

【総評】

- 構成は例年通り，大問4問。それぞれに小問が3問，計12問。
難易度は例年通り。決して難しい問題ではないが，ていねいに調べなければ正解しない問題も多い。2～3問間違え（およそ75点～80点）で切り抜けられるか否かが合否の境目となる。
- 「時間のマネジメント」と「解くべき問題の取捨選択」が合格のカギになるのは，筑駒算数の一番の特徴である。本年度の問題では，大問2の(3)はていねいに作図をして調べる必要があり，決して難しくはないが時間がかかるため，正答率は低かったと思われる。また，大問4もていねいに調べ上げる問題であり，(3)までは手がつかなかった生徒が多いと思われる。これらの問題に時間をとられることなく，他の問題を正答するだけの検証力が重要である。
- 出題内容としては，数の性質，条件整理，速さであり，単元としては過去にも出題例のある内容から出題されているが，例年にくらべて厳密に文章の意味を取らなければ正解できない問題も多く，安定したメンタルも求められる。

【細評】

〔1〕数の性質 小問3問

連続する整数の和に関する問題。ここ数年間で，開成，市川など様々な学校で出題されているテーマだけに，早く確実に正解しておきたい問題。

〔2〕条件整理（図形） 小問3問

進める距離がきまっているときに，格子状の道をどこまで進めるかを考える問題。麻布で似たようなテーマの出題がされている。(1)(2)は考える範囲がせまいので確実に正解しておきたい問題となるが，(3)は正答率が低いと思われる。

〔3〕点の移動 小問3問

筑駒では頻出単元である点の移動の問題。直線上を移動する点Pと，この直線に平行な直線上を動く壁があり，これを別の定点Aから見たときに，点Pが死角になる状況を考える問題。計算力が必要ではあるが，決して難しい問題ではない。

〔4〕条件整理（数論） 小問3問

3つの受付で，それぞれ時間ごとの処理人数が異なる受付担当3人について，どの人が何番目のお客さんの受付をするのかを考える問題。身近なテーマではあるが，ていねいに調べる必要があり，ミスをしやすい。(3)は1番最後の問題ということもあり，正答率が低いと思われる。